
岡山県八塔寺川の淡水ガメ相

阿部智洸・砂場千奈・岡崎拓也・竹内翔・亀崎直樹

700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学動物自然史研究室

Freshwater turtle phase on the Hattoji side ,Okayama prefecture.

By Tomohiro ABE, Senna SUNABA, Takuya OKAZAKI, You TAKEUCHI and Naoki KAMEZAKI

Okayama University of Science, 1-1 Ridai-chou, Kita-ku, Okayama 700-005, Japan

近年の日本の淡水ガメ相で危険視されていることのひとつが国内在来種であるニホンイシガメ (*Mauremys japonica*) の個体数減少である。そのような現状の中、私たちの研究室ではニホンイシガメが多数生息している河川を発見したため調査を行っている。調査は岡山県の三大水系の一つである吉井川水系の八塔寺川で、2019年より実施している。上流から下流にかけて8つの調査地点を設け、1地点につき3網ずつカメ網を仕掛け、翌日に回収し、捕まった個体がニホンイシガメかクサガメ (*Mauremys reevesii*) であった場合は各部位の計測を行い、個体識別番号を標識後に放流した。ミシシippアカミミガメ (*Trachemys scripta*) であった場合は駆除した。今回は捕獲個体数の観

点から本河川おけるカメ相の分析を行った。4年間の調査で仕掛けた768網において捕獲できた個体数はニホンイシガメ180匹、クサガメ134匹、ミシシippアカミミガメ11匹で交雑個体は捕獲されず、うち再捕獲個体がニホンイシガメ29匹、クサガメ16匹であった。地点における生息状況の傾向としては、下流ではニホンイシガメより他種の捕獲割合が大きく、上流ほどニホンイシガメは増加した。また個体数は少ないものの中流域までミシシippアカミミガメが侵入していた。全体的な傾向としては現在でも他種を越える割合のニホンイシガメが多く、の地点で捕獲されており、ニホンイシガメが多数生息しているといつて差し支えないと思われる。